

平成 30 年 10 月 12 日

狭山市議会議長 新良 守克 様

## 陳 情 書

この度狭山市から入曽駅周辺整備事業の計画が提示され、入曽にもまちづくりが始まることに多くの住民が期待を寄せているところですが、歩行者の危険性の改善がほとんど望めないなど、納得できかねるところがあります。

そこで平成 30 年 7 月 26 日に狭山市に対しまして、「入曽駅周辺整備事業基本計画案をより良くする為の提案」を提出しました。そして市の回答を検討しましたが、市からの答えで十分とは考えられないところがありましたので、今回下記の 3 項目を再度提案いたしました。市議会に於かれましても是非ともご検討をお願い申し上げます。

### 記

1. 高額な費用を掛けて橋上駅舎と自由通路の整備を考えるのではなく、道路と歩道及び踏切の整備を優先し、安全な歩行者空間をつくることを提案します。 提案する理由は次の(1)から(4)です。

- (1) 入曽駅周辺整備の基本計画について市の広報 2 月号 『入曽駅周辺地区の課題』及び『施設の整備計画 (案)』には、「広い道路が無い為、人と車が交錯して、安全面・機能面の問題があります。」と書かれています。しかしながら、市の提案を見ますと、多くのところで危険性が残ってしまいます。具体的には次の①から③などがあります。

- ①東口ロータリーが出来て、車の乗降がしやすくなることに関しましては改善が見込めますが、現在危険とされている市道 B296 号線 (県道 50 号に接続する一部分については拡幅を検討中と聞いています) や県道 225 号入曽停車場線は、歩道がなく人と車が交錯して危険な道路がそのまま残ってしまいます。

東口ロータリーとアクセス道路の整備で、駅を利用する歩行者の安全が確保されるとの回答ですが、駅利用者以外の人たちが様々な用事で駅周辺の道路を利用することが考慮されていません。

この写しは、狭山市情報公開条例に基づき  
作成したものです。



②西口にもロータリーの新設が計画されていますが、市道 B313 号線は、歩道がなく危険な状況であり、さらに線路側の道路は一方通行で、南側から来た車は駅西口に入れないという現状があります。ロータリーが設置されると交通量が増え、危険性が高くなることが想定されます。危険性の除去のために市道の整備を、また、利便性と回遊性を高めるために駅から南部への道路の新設が必要と考えられます。

③危険性は踏切においてはさらに深刻で特に駅の直近南側のところは、歩行者・自転車の危険性は計り知れません。鉄道施設に関する課題として、東西の行き来に不便があり、回遊性を高めることが必要と記されていますが、円滑な往来のためにも危険な踏切の改善の確実な実施が求められています。

(2) 安全な歩行者空間をつくることは入曽の住民が長年望んでいることであり、一番求められていることは、歩道と道路の整備です。

パブリックコメントでは、歩行者の安全を要望する意見が数多く寄せられています。そればかりでなく、平成 12 年の『狭山市都市計画マスタープラン・入曽地区まちづくり構想』におけるアンケートで、住まいの周辺で改善したいことの上位は次の通りでした。

- ①道路の未整備 53 件
  - ②歩道の未整備 33 件
  - ③駅前広場の未整備 25 件
  - ④交通安全施設の不足 11 件
  - ⑤雨水排水処理 10 件
- 他の項目は 10 件未満です。

(3) 今回の整備計画では、駅周辺の活性化も目的になっていますが、まちの賑わいをつくり中心市街地活性化に取り組むにあたって基礎になるのは、安全な歩行者空間を確保することで、歩道や道路の整備は欠かせません。買い物や飲食を楽しむ人にとっては、自動車を気にしないでゆっくりと寛げる街並みがとても重要です。

この写しは、狭山市情報公開条例に基づき作成したものです。

- (4) 橋上駅舎と東西自由通路についてパブリックコメントに多くの懸念や意見が寄せられています。現在の改札口を残してほしい、整備することでかえって不便になる、費用が大変高額ですべて狭山市が負担することなど問題点を指摘する意見が多数あります。

具体的には次の①から⑧などがあります。

- ①現在の改札口のほうが便利なので、残す方法を鉄道会社と真剣に協議してほしい。
- ②長い階段を登らなければならなくなる。エレベーターは少数の人しか乗れないし時間もかかり不便になり、また維持費(メンテナンス、電気代等)が毎年かかり財政面・環境面からもよくありません。
- ③橋上駅舎の改札口がホームの最北端になることで、階段から降りたところに乗降者が集中することや、トイレや女性専用車両が遠くなるなど新たな不便が生じる。
- ④住民から自由通路に上がるためのエスカレーターの設置の要望がありますが、設置するのもしないのか、説明がされていません。
- ⑤東西のつながりのためであるならば、自由通路のみを作れば済み、自由通路のみを設置した例が西武鉄道内にもあります。また、自由通路の利用者はあまり多くないと考えられますが、どれくらい想定しているのか示されていません。
- ⑥入曽駅は2年前にエレベーターが設置され、トイレも新築されるなど整備が進んでいます。入曽駅が見劣りするとの考えもあるようですが、客観的に考えて、駅に問題があるのではなく、駅周辺の整備がなされていないことが問題と考えられます。
- ⑦駅舎について考えるのであれば、狭山市駅のように多くの店舗が併設され賑わいのある駅になるのか、それとも単に改札口と自由通路だけがつくられるだけなのかを示してから検討すべきです。どのようになるのか住民への説明はありません。
- ⑧お金の有効活用が重要になっています。現在でも市の財政が厳しい状況であるとの説明を時々聞きます。これから高齢化が進み対策に費用が掛かり、さらに、少子化で働く世代が減少し、状況に厳しさが増すことは誰もが想像できるところです。

- (5) 火災発生時や大きな地震発生の際、緊急車両が円滑に入れるよう道路の整備が求められています。

現在の狭い道路状況では渋滞により対応が遅れてしまうことが懸念されます。特に火災については、市民の生命と財産を守るために交通渋滞が起きないようにすることが重要です。

この写しは、狭山市情報公開条例に基づき作成したものです。



2. 小学校跡地には、住民の生活の利便性向上のために異業種の店舗の展開を提案致します。

食料関係のスーパーマーケットを入れると、現スーパー2店の採算が取れなくなり、撤退の恐れがあります。仮にヤオコーが撤退した場合、入曽地区南側住民の買い物が不便になり、特に歩いて買い物に行く高齢者には日常生活に困難を生じさせます。反対に、現スーパーマーケットと異業種の店舗ができることは入曽住民にとって利便性向上につながります。住民の生活に配慮した整備が求められます。

3. 入曽駅周辺整備の進め方について、今後、住民への説明や住民の意見を聞く場を作っていただき、市と住民が共同で取り組むまちづくりをされるよう提案いたします。

『狭山市都市計画マスタープラン』には「市の主役である市民と市民に最も身近な市(行政)が共に考え、市の望ましい将来を見据えた都市計画の総合的な指針(まちづくりの方向性)を確立し、これをもとに、地域の特性を活かしたまちづくりを推進していきます。」と書かれています。

まちづくりはひとたびつくとほぼ永久的なもので、そして入曽の住民の生活に直結するものです。住民と市が共に取り組むことで、新たな工夫も生まれ、また住民が自分たちのこととして自主的に考え行動する動きも出てくるのが期待できます。

今回の駅周辺整備は入曽の将来に大きくかかわる重要案件であり、一回だけの住民説明会では、とても十分とは言えません。また、住民説明会が行われた時点では、市としても決定できてないことがいくつもあります。さらに、パブリックコメントで大変多くの意見が寄せられていることを考えても、随時、住民への説明をしていくことが必要と思われまます。

以上3項目を提案いたします。

入曽駅周辺整備を考える市民の会

代表 北入曽

若葉台

松 風

東急台

三葉台

中 原

東急台

この写しは、狭山市情報公開条例に基づき作成したものです。